

vol. 281

Autumn 2025

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

# Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

## Contents

- 02 時代を超えて受け継がれるお茶の水女子大学の歴史と伝統  
資料・校舎・校歌が紡ぐ150年

- 06 学生のアクティビティ  
第76回徽音祭

- 08 教員紹介  
赤城 裕  
基幹研究院自然科学系 講師

- 09 卒業生紹介  
関 ゆみん さん  
生活科学部人間生活学科 卒業

- 10 附属学校園からのお知らせ  
附属幼稚園



時代を超えて受け継がれる  
お茶の水女子大学の歴史と伝統

資料・校舎・校歌が紡ぐ

150年

お茶の水女子大学は、2025年11月29日に  
創立150周年を迎えます。本学歴史資料館に  
保存された貴重な収蔵品をご紹介します。  
資料、校舎、校歌を通じて150年の歴史を辿ります。

## 歴史資料館の ご紹介

お茶の水女子大学歴史資料館は、本学に関わる歴史資料の収集、保存、調査、研究、展示および公開を行なっています。また、歴史資料に関する教育研究活動における支援を実施しています。大学本館一階の展示室は、創立130周年記念事業による大学本館の改修工事の際に設置されました。1932(昭和7)年に竣工した大学本館の洋式作法室にあった石張り暖炉が復元されており、当時の雰囲気を感じることができます。

歴史資料館では、2011(平成23)年以降、特別展示を定期的に開催しており、現在は創立150周年を記念した「創立150周年記念特別展示」を開催中です。

また、歴史資料館スタッフと協働し、歴史資料館活性化のための活動を行う学生アシスタント Musa(Museum Student Assistant)も活躍しています。特別展示の設営(パネルの作成や展示等)、データ入力(目録作成)、収蔵庫と展示室の温湿度チェックなど、収蔵資



料に触れる業務を中心に、ブログ執筆やチラシ作成も行っています。

学芸員課程の学内実習では、毎年20名前後の学生を受け入れています。実習生には、特別展示の展示替えや展示パネル・キャプション作成などを体験してもらい、作成したパネルやキャプションは実際に展示で使用しています。

大学資料の収集・保存は、『お茶の水女子大学百年史』の編纂開始を機に、1967(昭和42)年1月に大学資料室が設置されたことに始まります。その後、大学資料室の業務は女性文化資料館に継承されました。女性文化資料館の改組等を経て、現在は附属図書館の下に歴史資料館が置かれ、附属図書館長が歴史資料館長を兼任しています。

## 歴史資料館の収蔵品をご紹介します

### ◆ 式典・行事資料



開校60年記念のために装飾された正門(1934(昭和9)年)

本学の前身である東京女子師範学校は、1875(明治8)年に開校し、同年11月29日に開校式が挙行されました。1904(明治37)年11月29日に本校開校三十周年記念式が挙行され、これ以来11月29日を開校記念日と定め、毎年祝賀式を行うようになりました。歴史資料館では、1925(大正14)年の開校五十年記念式以降の主な記念式の資料を収蔵しています。

### ◆ 卒業写真と卒業記念写真帖



第1回卒業生卒業写真

東京女子師範学校は、1879(明治12)年3月に第一回卒業証書授与式を行い最初の卒業生を送り出しました。歴史資料館では、その最初の卒業写真から東京女子高等師範学校が廃止された1952(昭和27)年3月までの卒業写真を所蔵しデジタルアーカイブズで公開しています。卒業アルバムである卒業記念写真帖の作成開始時期は不明ですが、1911(明治44)年3月から1941(昭和16)年3月までの写真帖の一部を、所蔵・公開しています。これらの写真資料から、当時の学生や教官の姿を見ることができ、関東大震災で焼失する前のお茶の水の校舎を確認することができます。

### ◆ 関東大震災



関東大震災直後の煉瓦校舎

1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災により、お茶の水の校舎は焼失しました。半年後には、旧校舎の焼跡に木造平屋建ての仮校舎を建て授業が行われましたが、1928(昭和3)年に現在の大塚の地への移転が決定し、1932(昭和7)年には本館が竣工しました。1936(昭和11)年に、新校舎が附属校舎も含めて全て整備され移転が完了し、その年の11月28日、29日には、落成式および落成記念祝賀会が挙行されました。

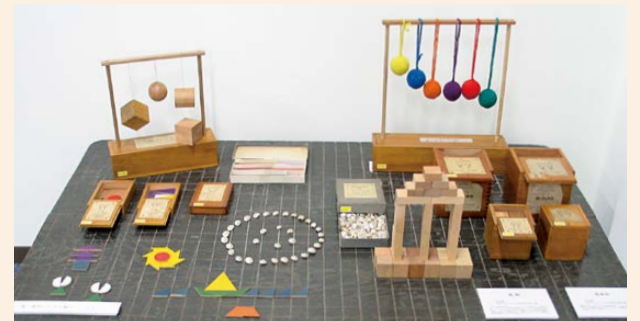
### ◆ 女性科学者資料



黒田チカ研究業績標本(シコニンとカーサミンの研究)

大学資料室を引き継いだ女性文化資料館では、大学百年史編纂に関わる本学の資料のみならず、女性に関する資料全般を収集しています。特色あるコレクションとして本学出身の「女性科学者資料」があり、現在は歴史資料館で管理しています。わが国初の女性博士となった生物学者の保井コノ、女性初の帝国大学生となり英国に留学して理学博士となった化学者の黒田チカ、第二次世界大戦前後にフランスに渡り日仏の研究者交流に尽力した湯浅年子、緑茶の成分について研究を重ね日本初の農学博士として活躍した辻村みちよらの資料を所蔵しており、4氏の資料については資料目録が公開されています。

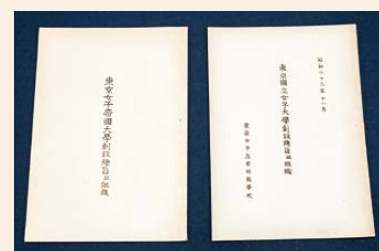
### ◆ 恩物



恩物と恩物机

1876(明治9)年11月、わが国初の幼稚園として本学の附属幼稚園が開園しました。当時の幼稚園では、恩物を使った教育が行われていました。恩物とは、教育学者フレーベルの考案による教育玩具で、なかでも幼児教育に重要な20種の遊具は「二十遊嬉」と名付けられています。日本には、フレーベル式教育を学び、本園の最初の主任保母となったドイツ人の松野クララによって紹介されました。

### ◆ 大学設置に関する資料



『大学創設趣旨並組織』

東京女子師範学校は、何度かの名称変更を経て東京女子高等師範学校となります。大正期後半から昭和初期にかけて、東京女子高等師範学校を女子師範大学とする要望が高まりました。この大学昇格への切なる願いは戦後に引き継がれ、国立大学への昇格を目指すこととなりました。その実現には幾多の困難もありましたが、女子の最高学府としての伝統と実績が認められ、1949(昭和24)年5月、新制国立大学としてお茶の水女子大学が開学しました。



## 正門・大学本館・ 徽音堂のご紹介

### 正門

お茶の水女子大学の歴史的建造物の1つとして国の有形文化財(建造物)に登録されている正門は、1936(昭和11)年6月に竣工し、鉄筋コンクリートの表面に万成石(まんなりいし、花崗岩)が張られた一对の門柱とその両脇の扉で構成されています。門扉は鉄製でしたが、戦時中の金属供出により外され、1942(昭和17)年6月頃の写真では、木製のものに替わっていることが確認できます。1955(昭和30)年には再び鉄製の門扉が取り付けられましたが、丸パイプを使用した、竣工当時とはデザインの異なるものでした。有形文化財登録後も異なったデザインのままでしたが、2017(平成29)年に正門復元改修工事が行われました。



竣工当時の正門

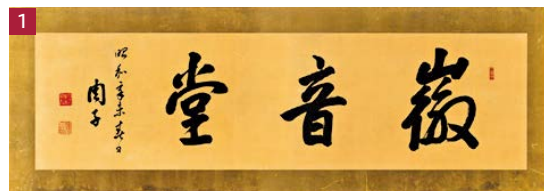


現在の正門

**1 徽音堂扁額** 徽音堂の完成にあたって贈られた、東伏見宮妃周子の手に成る額。**2 外壁レリーフ** ぶどうの房、葉、つるをモチーフにしたレリーフ。周りのタイルの茶色に対して、白いレリーフが映えている。**3 スクラッチタイル** スクラッチの名のとおり、串で引っかき傷模様をつけたタイル。昭和初期の流行。手作りのため味がある。**4-1 4-2 中央階段** 黒い鉄製ブロンズの化粧手摺子には昭和初期のデザインが見られ、レトロな雰囲気の空間を作り出している。

### 井上歴史資料館長からのメッセージ

創立150周年を記念して、お茶の水女子大学歴史資料館では特別展示を開催しています。本学が女子教育の先駆として歩んできた150年の歴史を振り返るとともに、将来の女子教育、女性リーダー育成に資することを目指して企画した特別展示です。この機会に、本学の貴重な収蔵品をぜひご覧ください。



### 大学本館・講堂(徽音堂)

関東大震災後の1932(昭和7)年に竣工した大学本館は、表現主義風のカーブでまとめたパラペットや前面の植物文様のレリーフが特徴的な正面中央部、窓台を白にした左右の二連窓など、優美なデザインを特色としています。

本館中央に位置する講堂は、「徽音堂(きいんどう)」と呼ばれ親しまれています。「徽音」とは、「美しい音」「美德」という意味で、先人の美德をよく受け継ぎ、德音を行ったという中国の故事にちなんでいます。正面上方には、講堂完成にあたって贈られた、東伏見宮妃周子(かねこ)の手になる「徽音堂」の額が掲げられています。

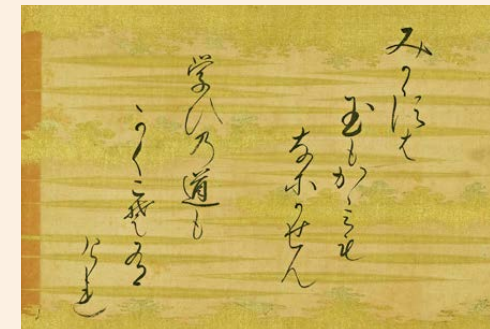
創立130周年を記念した徽音堂施設整備募金等により、2003(平成15)年9月から3年にわたり、徽音堂を含む大学本館全ての改修工事を行いました。改修工事では、外壁や植物文様の装飾レリーフなどの外観を保存し、また廊下の床、腰壁なども建設当時の材質、寸法、色を復元し、歴史と伝統を継承しました。

### 校歌「みがかずば」について

お茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校は、わが国最初的女子高等教育機関として1875(明治8)年11月29日に開校しました。開校式には、皇后(のちの昭憲皇太后)の行啓を仰ぎ、この時、皇后からは女子教育振興の令旨を賜り、また翌年2月には御歌色紙「みがかずば」を下賜されました。

御歌は1878(明治11)年に宮内省式部寮雅楽課伶人東儀季熙(とうぎすえなが)によって壹越調律旋(いちこつちょうりつせん)の墨譜(すみふ)が付され《学道(まなびのみち)》として歌われましたが、これは東京女子師範学校附属幼稚園で教材用として作られた保育唱歌のうちの一つで、現在本学で歌われている校歌とは、歌詞は同じですが旋律が異なります。

そののち御歌が歌われたことが確認されるのは1896(明治29)年です。5月の皇后第8回行啓での御歌奉唱のために、高等師範学校附属音楽学校(東京音楽学校)に作曲を依頼し楽譜を印刷・配布しました。その楽譜は二長調(壹越調呂旋(りょせん)・ヨナ抜き音階)で旋律は現在の校歌と全く同じであり、翌年からは卒業式など式典で「皇后陛下御歌 みかゝすは」として歌われるようになります。1900(明治33)年には学校編纂の沿革史に「校歌」の語が現れ、1913(大正2)年には式次第においても「校歌 みかゝすは」と記されるようになって、以後校歌として歌い継がれていくのです。



御歌色紙「みがかずば」



「皇后陛下特賜御詠」(1905(明治38)年印刷)

### 歴史資料館 創立150周年記念 特別展示のご案内

2025(令和7)年11月、本学は創立150周年を迎えます。1875(明治8)年に東京女子師範学校として開校し、女子高等師範学校(のちに東京女子高等師範学校と改称)となって「女高師」の名で親しまれました。戦後、新制国立大学「お茶の水女子大学」となり、国立大学法人化を経て現在に至ります。震災や戦争など数多の困難を乗り越え、女子教育の先駆として多くの人材を輩出してきた本学の歩みは、すなわち日本の女子教育と女性リーダー育成の歴史でもあります。

本展は本学の歴史と業績を振り返ることにより、それを次世代に伝え将来の女子教育に資することを目指して企画しました。ご来場いただく皆さまには、あわせて本学の未来にも思いを馳せていただけたら幸いです。

#### 特別公開

2025年11月25日(火)～12月5日(金)  
11:30～15:30 予約不要

#### 通常公開

2025年9月30日～  
2027年3月(予定)  
要予約(見学を希望される方は  
お問い合わせください)



### 歴史資料館 デジタルアーカイブズのご案内

お茶の水女子大学歴史資料館のウェブサイトには、「デジタルアーカイブズ」のページがあり、写真資料(卒業写真・卒業記念帖・行事写真など)・絵葉書・美術工芸(皇太后像など)・書跡(御歌「みがかずば」)、教育資料(幼稚園で使用)、大学史資料(令旨)などを広く一般に公開しています。これらの公開資料を中心に、歴史資料館の所蔵資料は研究者の方による調査や書籍、TV番組等での画像使用などに活用されています。

デジタルアーカイブズにはこちらから ▶  
アクセスできます。





# 学生の アクティビティ



お茶の水女子大学

# 徽音祭

徽音祭実行委員の皆さんにインタビューしました！



委員長  
**水野 萌花**  
(みずの もえか) さん

文教育学部 言語文化学科  
仏語圏言語文化コース 3年

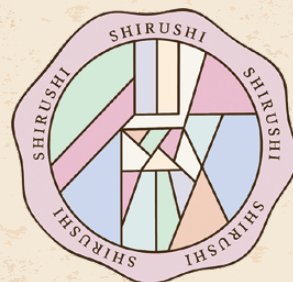
副委員長  
**加藤 里佳**  
(かとう りか) さん

生活科学部 人間生活学科  
生活社会科学講座 3年

副委員長  
**谷 ゆり子**  
(たに ゆりこ) さん

文教育学部 芸術・表現行動学科  
音楽表現コース 3年

テーマ「徽(しるし)」と  
ロゴについて教えてください！



第76回徽音祭のテーマは「徽(しるし)」です。徽音祭にも使われている「徽」の文字には美しいという意味の他に、「しるし」という意味があります。今年はお茶大創立150周年。長い歴史の中でたくさんのお茶大生が紡いできた「徽」を感じながら、今私たちが生きている瞬間も新たに「徽」の1ページとして繋いでいきたい…という想いが込められています。

テーマロゴでは、徽音堂のステンドグラスで「徽」の文字を型取り、モダンなパステル調にしました。過去と現在を象徴するモチーフを、シーリングスタンプに見立てて表現しています。

おすすめ企画や  
見所はありますか？

創立150周年にちなんだ企画として、お茶大や今年の徽音祭について知ることができるスタンプラリーを開催いたします。学内の至る所にクイズが掲示されているので、それらを解答しながらスタンプを集めていただく形式です。楽しみながら大学について学んでいた



だけの企画となっていますので、お茶大をより深く知るきっかけになればと思います。

また、徽音祭公式ホームページにも力を入れています。テーマに基づいた可愛いデザインに仕上げました。利便性にも配慮し、各企画の詳細をわかりやすく掲載しています。開催前から来場者の皆さまにワクワクしていただけるよう工夫を凝らしましたので、ぜひご覧いただき、当日をさらに楽しみにしていただければ幸いです。

工夫している点はありますか？

徽音祭を訪れる皆さまに安心して楽しんでもらえるよう、学内エリアの位置が一目で分かるように案内看板の明瞭化に特に力を入れています。看板の配置やデザイン、文字の大きさや色使いなど細部にもこだわり、初めて来場される方でも迷わず目的の企画にたどり着けるよう工夫しました。キャンパス全体を歩いて回りやすい環境だからこそ、気軽に多くの企画をお楽しみいただけます。そのサポートを看板でできれば嬉しく思います。来場者の皆さまが存分に徽音祭を楽しみ、思い出を持ち帰っていただければ願っています。



最後にメッセージを  
お願いします！

今年度の徽音祭に向けて、春から企画の立案や準備に努めてまいりました。実行委員会だけでなく、参加83団体も、ご来場いただく皆さまに楽しんでいただけるよう、互いに協力し合いながら試行錯誤を重ねてきました。当日は、この数か月にわたる努力の成果を形にし、来場者の皆さまに笑顔と活気あふれる時間をお届けできるよう尽力いたします。

創立150周年という節目の年にふさわしい学園祭となるよう、委員一同、心を込めて運営に取り組んでまいります！

ホームページ&SNSは  
こちら



第76回徽音祭  
ホームページ



第76回徽音祭X



第76回徽音祭  
Instagram





## 教員紹介 Interview

赤城 裕 先生

基幹研究院 自然科学系 講師

### Profile

神奈川県川崎市出身。東京工業大学物理学科卒業後、大学院から東京大学物理工学科に進学し博士（工学）の学位を取得。沖縄科学技術大学院大学（OIST）ポスドク、東京大学物理学科助教を経て、2025年4月に本学着任。



Yutaka Akagi

スピン×幾何学が拓く

次世代物性

### Q1 研究テーマと、研究者・大学教員を志したきっかけをお聞かせください。

私の主な研究テーマは「トポロジカル磁性」です。今のAI時代を支えるエレクトロニクスは電子がもつ電荷を利用していますが、電子はスピンと呼ばれる小さな磁石のような性質もあります。このスピンの織りなす多様な構造や量子状態と、“形”を連続的に変えても変わらない特徴を探る幾何学（トポロジー）を組み合わせたものがトポロジカル磁性で、その代表例が磁気スキルミオン（写真の背景図）です。私はその発現条件や性質を理論的に解明し、将来的には既存素子を超える新物質開発や量子情報処理技術に繋がたいと考えています。

元々教えることや学ぶことが好きで中高の教員免許も取得しましたが、研究者・大学教員を志したきっかけは2つあります。第一に、大学院での研究が楽しく、修士課程で論文執筆までの一連の流れを経験し、自分でも研究ができると実感したこと。第二に、博士課程進学を迷った際に親友から「本当に知りたいことに関われないのは嫌になるはず」と助言され納得し、研究を志す覚悟を固め進学を決断したことです。

### Q2 研究の楽しいところ、あるいは苦しいところをお聞かせください。

研究の楽しさは、「自由」にあります。大学学部までは「～を求めよ/示せ」といった目的の見えるにくい課題に取り組むことが多いですが、研究では何を、何故追求するのかを自分で決められるのが大きな魅力です。また、長く悩んでいた問題を解決できた時の喜びは知的カタルシスそのものです。一方で、思うように結果が出ず、ゼロから考え直さざるを得ないこともあり、他の研究者に先を越されることもあります。それでも試行錯誤を重ね、研究を少しずつ前に進めていく過程そのものが、大きな楽しさだと感じています。

### Q3 趣味や息抜きなど、研究の糧になる活動をお聞かせください。

趣味は筋トレ（自重）で、気分転換に漫画やアニメも楽しめます。筋トレは私にとって「動的な瞑想」です。短時間でできるため続けやすく、心身を整え、研究や教育に集中するために欠かせない習慣となっています。また、娘たちと遊ぶ時間は何よりの息抜きです。笑顔を見ていると幸せを感じると同時に、「この子たちの未来のためにも研究を頑張りたい」という原動力にもなっています。

担当：宮崎 充彦  
基幹研究院自然科学系 准教授

### Q4 将来の夢をお聞かせください。

未就学の娘が2人おり、お茶大に着任させていただいたご縁から抱くようになった夢は、お茶大生が社会で活躍し、そうした力が女性にとってより生きやすい未来を切り拓くことに貢献することです。その実現に向けた現段階での具体的な目標は、質の高い教育を通じて学生の成長を支え、社会で実力を発揮できる人材、とりわけ博士号取得を志す人材を育てることです。

### Q5 お茶大生へのメッセージをお願いします。

私は学びとは、多様な視点・視座を得ることだと考えています。社会で活躍し未来を切り拓くには、新しい発想や解決策を生み出すことが不可欠です。その契機の一つが、多様な視点から物事を捉えることです。そのため、単一の視点に留まらず、批判的・客観的な視点、分野を越えた多角的視点、更に一見無関係に思える点と点を結びつける俯瞰的・メタ的視点を身につけることが重要です。お茶大での学びを通じて、そうした多様な視点を手に入れてほしいと願っています。

### Q1 現職に就くまでの経緯、現在の仕事内容ややりがいについて教えてください

新聞記者になって3年目になります。小学生の頃から漠然と記者に憧れていました。家や学校以外の知らない世界を教えてくれる新聞が好きで、気に入った記事を切り取っては落ち込んだときや迷ったときに読み返して、心の支えにしていました。

本格的に新聞記者を志したのは、お茶大で社会学やジェンダーを学んでからです。性暴力の問題や差別、貧困といったテーマに強い関心を持つようになり、「誰かが抱える生きづらさを丁寧に言語化して、誰もが生きやすい社会をつくる一助になりたい」という思いを強め、現在の会社に入社しました。

入社後は、初任地の京都で2年間、主に事件や裁判の取材をし、現在は横浜で行政の取材を担当しています。性暴力やジェンダーという関心分野の取材も少しずつ続いています。自分の記事が、かつての私のように、誰かの生きづらさの解消に少しでもつながれば、と思いながら、日々奮闘中です。

### Q2 大学での学びや経験は現在にどのように生きていますか。

「家族法」ゼミに所属し、主に家族のあり方、ジェンダー、性の多様性について学びました。記者をしていると、法律や人権、ジェンダーの知識は必要不可欠だと感じます。特に、性暴力事案の取材や同性婚に関する訴訟の取材のときは、より強く感じました。大学時代にゼミや授業で前提の知識を身につけ、先生や他の学生と深い議論ができたことは本当にありがたいことだったと痛感しています。

人権、マイノリティへの視点、どんな人も差別・排除されない社会。大学で学び、休みに時間に食堂で友人たちと議論し合っていたことの延長に、今の仕事があると感じています。お茶大という充実した環境で、先生や友人に恵まれてのびのびと学び、意見を聞いてもらうことができた4年間は私の財産です。

学業以外にも、ダンスサークルや音楽サークルでの活動など、好きなことに打ち込んだ大学生活でした。大学時代に出会えた友人、触れた音楽や映画、本などは、今も生活に彩りを与えてくれる存在です。

### Q3 お茶大で学ぶ皆さんへのメッセージをお願いします。

充実した4年間でしたが、決して順風満帆の大学生活ではなく、サークルやアルバイトの予定を詰め込みすぎて余裕を失ったり、単位を落として落ち込んだり、とたくさん失敗をしました。ただ、一緒に勉強に付き合ってくれ、相談にのってくれるお茶大の友人たちに何度も救われ、立ち直れました。今では、失敗の数々も大切な思い出であり、教訓です。皆さんには、失敗を恐れず、好きなことにチャレンジしてほしいと思うと同時に、落ち込んだときや不安なときに一息つける居場所や相談できる場があることを心から願っています。本や新聞も、迷ったときに何か助けになるかもしれません。

「こうあるべき」というような考えにとらわれず、皆さんそれぞれが心地よく生きていくための学びや人間関係を探索できる場所、それがお茶大だと思っています。大学生活、ぜひのびのびと楽しんでください！

担当：今泉 修

人間発達教育科学研究所 准教授

## 卒業生紹介 Interview

株式会社 朝日新聞社  
関 ゆみん さん

### Profile

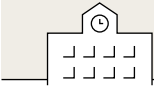
2023年3月お茶の水女子大学生活科学部人間生活学科生活社会科学講座卒業。  
2023年4月朝日新聞社入社。現在は横浜総局に勤務。



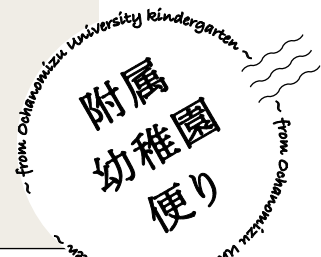
Yumin Seki



# 附属学校園からの お知らせ



「つくる」がうまれる暮らし



子どもは自ら育とうとしています。その考えを基本に、一人ひとりの子どもが、自分で好きな遊びをみつけ、自分のタイミングで安心して遊びに取り組めるような暮らしを保障しています。  
今号では、子どもたちの「つくる」に着目して、幼稚園の取り組みをお伝えいたします。



附属幼稚園の一日は、一人ひとりの子どもの思いから始まるため、日々、いろいろな遊びが展開されていきます。園庭では、砂場や虫とり、鬼ごっこや色水遊び、保育室や廊下ではお店やショー、電車遊びなどに取り組んだり、遊びにちょうど良い場所を求めて遊戯室やアトリエ(多目的室)で遊んでいたりと、遊ぶ内容も場所も様々です。その中でとても目にとまる遊びの一つに「ものをつくる」ことがあげられます。

遊びに必要なものをつくる、時には「先生つくって」と教師に伝え、やりとりしながら一緒につくりあげることもあります。保育室には紙や空き箱、新聞紙や、ハサミ、テープ類など、学年や時期によって、様々な材料や道具を準備しています。さらに、いろいろな材料が置いてある部屋が教材室です。  
2013年の園舎大規模改修の際に、教材室も改修・改革をしました。例えば、材料を半透

明のケースに色別、種類別に分類して入れ、子どもの目に触れ、手に取りやすいように工夫しました。半透明であることで形や色が淡く見え、想像力がかきたてられ、実際に触れることで、気づきやきっかけがうまれます。目的があって教材室に行く人もいれば、先生や友だちについて行きいろいろな材料を眺める中でつくりたいものが出てくる人もいます。つくる場所は保育室にとどまらず、時には廊下や園庭でつくる



こともあります。

写真で遡ると、昭和8年ころから誘導保育(幼児の直接体験や興味をテーマとして総合的な保育を目指す取り組み)の中で、「大売り出し遊び」や「旅へー東京駅からー」などテーマを決めて数ヶ月にわたってつくり重ねていく遊びがみられました。教師が言葉で誘導するわけではなく、子どもの思い付きや必要感を大事にすくいとり、教師のアイデアを重ねてつくっていったようです。

今でも子どもの主体性を大事に、教師も一緒に考えたり、手伝ったり、他の子どもに投げかけたりにして一人の子どもの思いを実現していくのと同じだったといえます。  
また、2023年から『「つくる」がうまれる暮らし』を研究テーマに掲げ、研究を継続しています。「つくる」には、場や人間関係、生活をつくるということもありますが、「ものをつくる」に着目し、つくり始める前からつくりあげるまで、さら

には終わった後のかかわりの変化や心の動きを丁寧に追っています。プロセスやつくったものを通じて、遊びや関わりが広がり、場が豊かになり、つくる人やものを尊重する循環があると考えます。このような豊かな「つくる」暮らしをこれからも保障続けたいと考えています。

## 附属学校園での出来事 2025年 7月～9月

Sep. 9

### 附属高等学校

- 始業式 ● 第Ⅱ期教育実習
- 第2回学校説明会(Web配信)(3月)
- 文化祭(種鏡祭)
- 2年進路講演会

### 附属中学校

- 第Ⅱ期教育実習
- 第2回学力テスト(3年)
- 生徒祭 ● 中間テスト(3年5科、1・2年英語)

### 附属小学校

- 始業式 ● 不審者対応訓練
- 栄養教育実習 ● 水泳学習終了
- 保護者会(3・5・6年)
- 校外学習(1年)

### 附属幼稚園

- 始業式 ● クラス懇談会
- 教育実習(後期2週間) ● 避難訓練
- 誕生会(9月)

### いずみナーサリ

- 水遊び終了 ● お月見 ● カレーパーティー
- 避難訓練
- (首都圏大地震・引き渡しおよび安全確認訓練)
- 始業式 ● 水遊び・プール遊び
- 第1回ワクワクデー
- (ヴァイオリンとチェロのコンサート)
- 避難訓練・安全指導
- こどもざっく祭り「味噌ができたよ!」
- 乳児園医健康診断
- 9月誕生会 ● 5歳児遠足(大井町頭中央海浜公園)
- 水遊び・プール遊び終了

Aug. 8

### 附属高等学校

- お茶大夏の研修会(関東地区SSH指定7女子高校等研究交流会)
- 最先端フィールドワーク ● 理数一日体験授業
- 附属中学校
- 発電所見学会(理系女性育成啓発研究所主催)
- 2学期始業式

### 附属小学校

- 帰国児童入学検定
- 林間学校(八ヶヶ峰)(5年)

Jul. 7

### 附属高等学校

- 第Ⅰ期教育実習 ● 1・2年学力テスト
- 2年課題研究発表会 ● 保護者会(1・2・3年)
- お茶大サマープログラム(8月)
- 終業式 ● 3年三者面談(8月)

### 附属中学校

- 第1回学力テスト(3年)
- 学年別保護者会 ● 終業式
- オープンスクール(お茶中生がガイドする校舎見学ツアー)
- 帰国生編入検定・発表
- お茶大サマープログラム

### 附属小学校

- 避難訓練 ● 保護者会(1・2・6年)
- 個人面談 ● 林間学校(裏磐梯)(6年)
- 終業式

### 附属幼稚園

- 幼稚園主催講演会
- 5歳児バス遠足(葛西臨海水族園) ● セミの羽化を観る会(5歳児親子希望者)
- 誕生会(7月・8月合同) ● 終業式
- 1号登録 ● 2号・3号・夏の保育開始
- 夏まつり

### いずみナーサリ

- セミ ● 水遊び
- 避難訓練(地震・水遊び中)
- 水遊び・プール遊び ● セミ・7月誕生会
- 乳児園医健康診断 ● 避難訓練・安全指導
- 終業式 ● 8月誕生会 ● 1号・夏季休業開始
- 1号登録 ● 2号・3号・夏の保育開始
- 夏まつり

### 子ども園





表紙・裏表紙について：

1932(昭和7)年に竣工した大学本館には、貴賓室が設けられていました。

現在も大学会議室として、当時の雰囲気を残しながら使用されています。

表紙は現在の、裏表紙は1936(昭和11)年当時の姿です。

## Ochadai GAZETTE

vol.281  
Autumn  
2025

発行日 / 2025年11月5日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

広報・ダイバーシティ推進課

E-mail: [info@cc.ocha.ac.jp](mailto:info@cc.ocha.ac.jp)

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、  
本学ホームページに掲載されています。  
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学は  
2025年に創立150周年を迎えます



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University